

医学部栄養学科を改組し、 医科栄養学科を設置

2014(平成26)年1月

2013(平成25)年8月に学科創設50周年を迎えるにあたり、「徳島大学医学部栄養学科創設50周年記念事業」を実施した。この間、文部科学省に学科の名称変更を申請していた。顧みると、わが国においては戦後の欠乏の次回から飽食及び成人病の時代、さらには高齢化社会へと急速に進み、栄養の重要性は益々高まっていた。そこで医学部に併設した全国唯一の栄養学科であり、病院を有する特徴を最大限に活かし、“Medical Nutrition(メディカルニュートリション)構想”を掲げ、「栄養学科」を「医科栄養学科」に改組することを申請した。創設50周年記念式典では、文部科学省高等教育から「これまで栄養学科は我が国の栄養学教育研究のリーダーとしての役割を果たしてきた。今後、医科栄養学科に改組されるが、文部科学省としても期待しており、栄養学の国際教育研究拠点形成に発展させて欲しい。」との祝辞が披露された。

2014(平成26)年4月より改組した医科栄養学科では、

同じ敷地内に大学病院を有する優位性を生かし、臨床栄養学教育とくにベッドサイド教育の強化を目的に病院栄養部と共同で新しい教育研究プログラムを支援する体制を構築した。その為に、従来の7分野に加え新たな臨床系分野として疾患治療栄養学分野を発足させた。新分野である疾患治療栄養学分野は、医科栄養学科と病院栄養部の橋渡しを行うとともに、ベッドサイド栄養管理学を教育研究し、アジアにおける教育研究拠点を目指している。疾患治療栄養学分野教授は病院栄養部長を兼任しており、臨床実務を通して医療の現場が本当に必要としているエビデンスを発信し、新しい治療法や食品の開発を行う。初代教授には濱田康弘先生が選出され、管理栄養士の臨床教育に重点を置いた教育体制を構築させた。医科栄養学科に改組後は入試競争倍率も上昇し、2018(平成30)年3月には、医科栄養学科1期生を送り出した。



栄養学の変遷と医科栄養学科の展望

